だれの目にも優しいカラーユニバーサル・デザインで制作した広報誌です。

ふれあいネットワーク

やまなしの福祉

No.320
2014
11月号

特集 認知症への正しい理解

P2 県内の認知症高齢者
P3 中央市オレンジカフェ
P4 山梨市徘徊SOSネットワーク
P6 あした葉の会
P10 福祉用具紹介
P12 いきいき山梨ねんりんピック

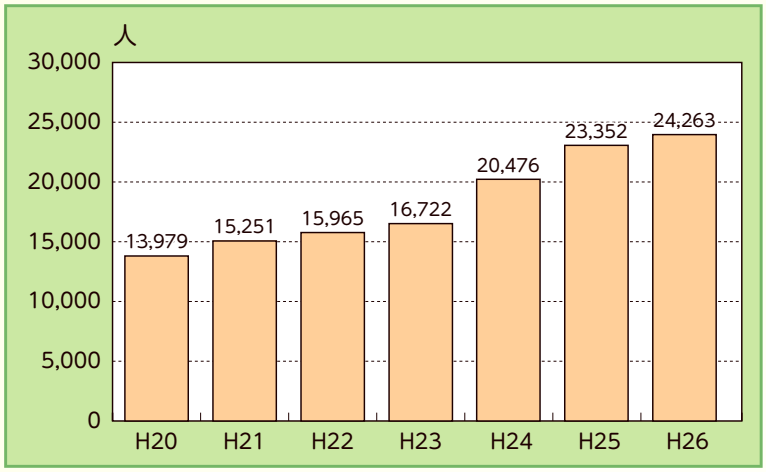
表紙写真：8月29日 中央市のオレンジカフェ

県内の高齢者の10人に1人が認知症

75歳以上では5人に1人

山梨県内の認知症高齢者は年々増加しています。山梨県の調査では、平成20年に13,979人で高齢者人口の6.8%だったのが、平成26年には24,263人となり、高齢者人口の10.6%を占めるようになりました。県内の65歳以上の10人に1人が認知症ということになります。

〈認知症高齢者数の推移〉平成20～26年



また平成26年の認知症高齢者のうち75歳以上の人は22,418人で、92.4%を占めています。県内の75歳以上の19.1%となり、5人に1人が認知症という数字です。

全国的にも認知症高齢者は増加しています。厚生労働省が平成24年8月に公表した認知症高齢者数の将来推計によると、平成22年は280万人（高齢者人口の9.5%）ですが、27年には345万人（同10.2%）、32年には410万人（同11.3%）、37年には470万人（同12.8%）になると推計しています。また、より軽度の認知症の人や予備群を含めると、高齢者の4人に1人にものぼるとの推計もあります。

※ここで言う「認知症高齢者」とは、介護保険第1号被保険者で介護保険認定審査資料の「認知症高齢者の日常生活自立度」がⅡ以上の人。

※「認知症高齢者の日常自立支援度Ⅱ」・・・日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、だれかが注意していれば自立できる（たびたび道に迷う、服薬管理ができない、一人で留守番ができないなど）。

県版オレンジプラン策定へ

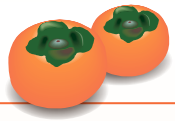
こうした中、山梨県では「認知症になっても安心して暮らし続けられる山梨県」を目指し、「山梨県認知症対策推進計画（県版オレンジプラン）」の策定を進めています。

山梨県では年度内に策定し、平成27年度から3カ年で実施することにしています。

オレンジプランとは？

「オレンジプラン」とは、平成24年9月に厚生労働省が策定した「認知症施策推進5か年計画」の通称です。25年度から29年度までの5年計画であり、既にスタートしています。

「オレンジ」の通称がつけられたのは、厚生労働省による「認知症サポーター100万人キャラバン事業」で養成される認知症サポーター（認知症への理解を深め、認知症の人やその家族を温かく見守り支援するための講座を受講した人）が手首に着けるオレンジ色のリングに由来するようです。



なぜ「オレンジ」？

江戸時代の陶工・酒井田柿右衛門が夕日に映える柿の実の色を見て作り出した赤絵磁器は、ヨーロッパにも輸出され世界的な名声を得ました。

この赤絵磁器のように「オレンジリング」が世界のいたるところで「認知症サポーター」の証として認められればとの思いがあるようです。また温かさを感じさせるこの色は「手助けします」を意味するとも言われています。

中央市にオレンジカフェ 気軽に話して悩みを共有

認知症カフェ

認知症の方とその家族の皆さんが気軽に相談できて、集える場所としての「オレンジカフェ」が山梨県内で初めて中央市下河東にオープンしました。5月から毎月1回開かれ、回を重ねるごとに参加者が増えて、カフェでは和やかで明るい声が響いています。

開設の経緯などを中央市高齢介護課課長の乙黒英二さん(左)と同市地域包括支援センター主任介護支援専門員の名取ゆりかさん(右)にお聞きしました。

集える場が必要

オレンジカフェ開設のきっかけは、今年2月に市が開催した介護予防のシンポジウムで、介護経験者であるパネリストの一人が「集える場がほしかった」と訴えたことと、認知症の人と家族の会(オリーブの会※本誌P6-7参照)の皆さんとの出会いからでした。

介護されている方は先がわからないから不安になっています。「あなただけじゃないよ。同じ思いをしている人がいるよ」と、一緒に悩んでいる人と話をする場があっていいのでは、と考えました。

カフェを支える力

カフェに参加するのは本人と家族、一緒に寄り添う協力者の皆さんです。協力者は認知症介護の経験者のほか、看護師など医療・介護現場の方で、いずれもボランティアでの参加です。

運営は行政だけではなく、企画を考えるのもすべて協力者の皆さんといっしょです。おやつも協力者の手作りです。当日参加する協力者の人数はその時々で違うのですが、最初は4、5人だったのが誘い合うなどで増えています。

よみがえった介護者の笑顔

毎月開いていれば「行きたい」と思う時に気軽に来ることができるようになります。実際に回を重ねるごとに参加者が増えています。

ある方はご主人の介護に疲れて顔が曇っていたのですが、カフェをきっかけに笑顔を見せてくれました。「また来ます」と言うだけでなく、別の方も誘って来るようになり、口コミで参加者が広がっていることを実感します。

今後の展開

まだ始めたばかりですので、まずは今の取り組みをしっかり進めたいと思います。協力者の方からは「もっと回数を増やしたいですね」と言っていただいています。

市としても同じ気持ちですが、ここだけでなくて市内に何か所もカフェができて気軽に集える場になればと考えています。

わたしたちも楽しみ

協力者で介護経験のある諸星早苗さんと小沢末子さんの話。

一人で悩むのではなく、同じ経験、悩みを持つ人の話を聞くことで救われ、認知症の人にも優しくなることができます。介護する人も認知症の方も幸せになるのだと思います。

参加された方が「楽しかった」と言えば、次はどんな企画にしようかと楽しみになります。

行方不明の認知症高齢者を早期に発見して命を守る

山梨市の徘徊SOSネットワーク

行方不明の認知症高齢者を地域ぐるみで早期発見・保護を行う「徘徊SOSネットワーク」。山梨県内では7市町で構築しています。6年前から取り組んでいる山梨市の運用状況や課題などについて、同地域包括支援センター管理者の鈴木操さんにお聞きしました。

※構築済みは山梨市のほか、富士吉田市、大月市、韮崎市、甲州市、市川三郷町、南部町の7市町。

徘徊SOSネットワーク構築のきっかけ

山梨市は、県の「認知症支援体制構築推進事業」のモデル地域に指定されたのを受けて平成20年2月に「認知症支援ネットワーク会議」を立ち上げました。当時は「認知症」という言葉もまだ浸透していない状況で、診断や治療も十分ではありませんでしたが、モデル地域の指定により体系的な認知症対策ができれば、市民の安心にもつながると期待しました。

その頃、防災行政無線で行方不明者の捜索の情報が度々流れました。ネットワーク会議では、背景に認知症高齢者の問題があると考え、「認知症による行方不明者対策」の機運が高まりました。モデル事業の中から「徘徊SOSネットワーク」の「山梨市版」を構築することになり、警察、消防、タクシー、JR、郵便局など関連機関に相談したところ、どこも協力的で平成21年3月に「山梨市徘徊SOSネットワーク」を発足しました。

山梨市地域包括支援センター
管理者 鈴木 操さん

情報を共有しスムーズに対応

家族が徘徊する恐れのある認知症高齢者の情報を包括支援センターに事前登録します。名前、住所などのほか、よく行く場所、実家、昔住んでいた場所など行動範囲の特徴も登録します。

登録情報はセンターと警察、発見された場合の一時保護施設である市立養護老人ホーム「晴風園」の三者で共有します。共有することで名前を伝えただけですぐに対応できます。

行方不明者が出た場合、家族がまず警察へ届け、警察が防災行政無線などを担当する市役所総務課や消防署などの関係機関にFAXで情報を流します。毎年、情報をスムーズに流せるよう情報伝達訓練を実施しています。

登録の促進や市民の協力をお願いするため、市の広報やケーブルテレビ、チラシが入ったティッシュを配布するなど、周知に努めています。

これまでに事前登録した人数は延べ61人。毎年、10人前後の新規登録があります。

ネットワークが役立った事例もあります。自宅へ迎えに行ったデイサービスの職員が女性の不在に気付いて地域包括支援センターに相談し、息子さんが警察に届け出てネットワークで捜しました。

結局、女性は自宅に戻ったのですが、徘徊の理由は買い物をしようと金融機関にお金を引き出しにいった後、帰り道がわからなくなったということでした。

女性は買い物が好きだということがわかり、訪問介護サービスで安心して買い物ができるようにしたところ、徘徊はなくなりました。

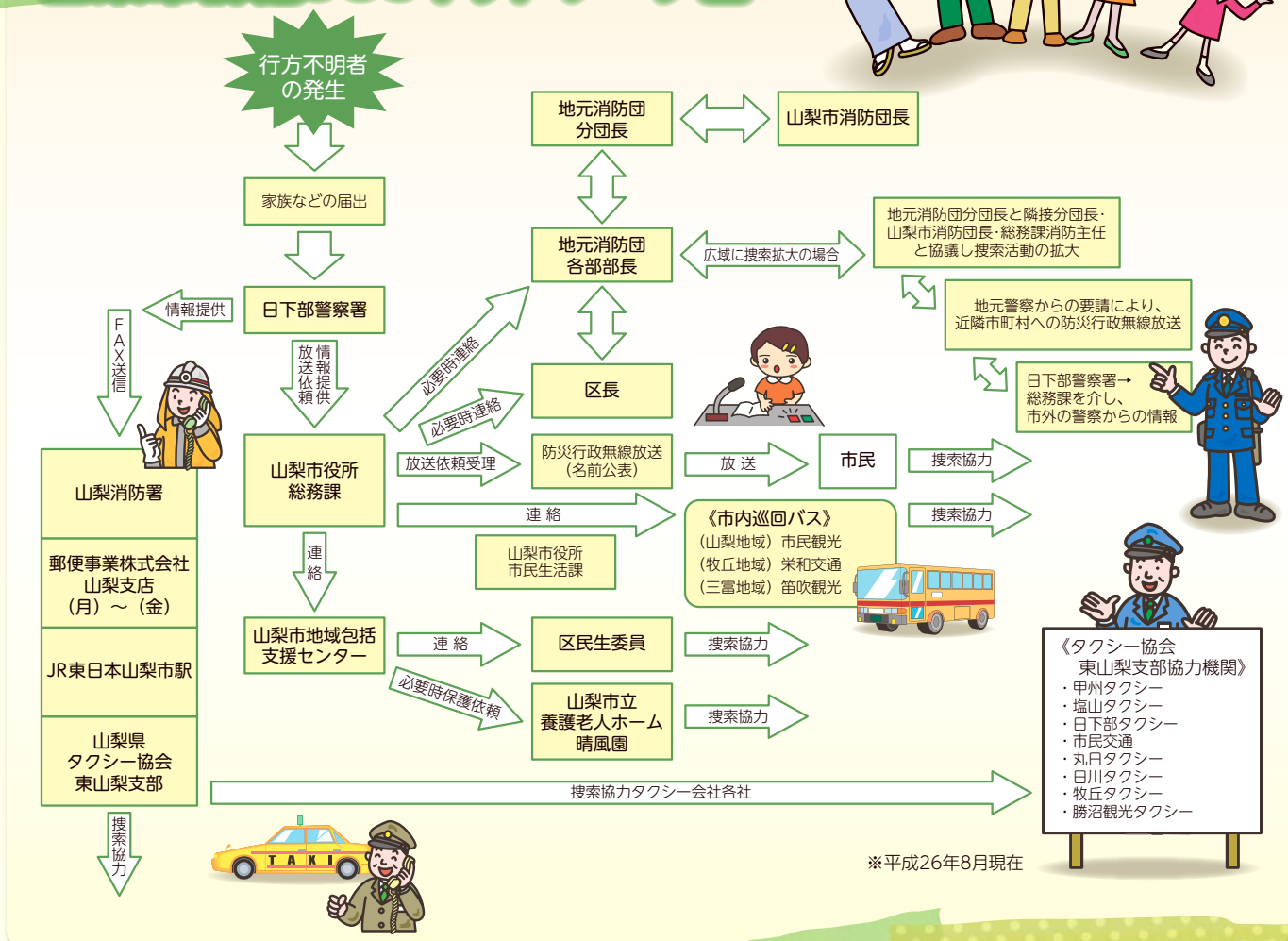
ネットワークの役割は、命を守ることが一番ですが、それだけではなく本人や家族にとって安心して暮らせる環境づくりを考える場でもあると思います。

登録者増と広域的な連携をはかる

課題は、登録者を増やすことです。まだ認知症かどうかの診断がつかず、ちょっとおかしいな、と思ったら気軽に地域包括支援センターに相談してほしいと思います。また車や電車で広範囲を移動できる時代ですので、周辺市町村はもちろん、他県も含めた広域的な連携が必要です。

そして一番重要なのは、地域が認知症への知識と理解を深めることです。認知症になってもできることはたくさんあります。住み慣れた地域でできることを続けることが大切です。周囲が関心を持って声掛けをする地域になれば、認知症の人も家族も、だれもが安心して暮らしていけるのではないでしょうか。

山梨市徘徊SOSネットワーク図



※平成26年8月現在

認知症に無関心でない地域社会を

自分が置かれている環境を認知する能力が落ちてきて、そのために思い違いが起きてしまうのが認知症です。根本的には老化が原因で、長寿社会になったことで認知症高齢者も増えてきました。

徘徊は、自分のいる環境が正しく認知できないことから起きます。何もわからなくなって徘徊するわけではなくてちゃんと目的があるのです。

よく「うちに帰る」といって自分の家から出てくる人がいますが、本人にとっての「うち」のイメージは、「子どもの頃のうち」や「若い時に初めて建てた家」なのです。本人は懸命に「うち」に帰ろうとしているのです。

徘徊を防ぐには「ここは安心できる場所なんだよ」と繰り返し教えてあげて自覚してもらうことです。それも一人が言うのではなく、周りの人も言ってあげることが大切です。

山梨市の徘徊SOSネットワークは、認知症高齢者が増えていくなかで大切な事業です。ネットワークが機能するためには、一般の方に認知症に対する知識と理解を深めてもらうことが大切です。関係機関だけでは機能しません。一般の方の協力が重要です。

認知症に対し、無関心ではない地域社会づくりをしていく必要があります。

山梨市認知症支援ネットワーク会議委員
山梨市医師会副会長
鶴田 好孝さん

安心して暮らせる社会をめざし 認知症の人と家族をサポート

公益社団法人 認知症の人と家族の会 山梨県支部（あした葉の会）

「あした葉の会」は、まだ「認知症」という言葉すらなく「痴呆」「ぼけ老人」と言われていた時代から、認知症の家族を抱えて悩み苦しむ人のサポートを続けてきました。同会の歩みと課題などについて、創設時から携わっている名誉会長の平井出設子さん、代表世話人の田村一貴さんら同会の皆さんにお聞きしました。「認知症に対する地域社会の理解は大きく進みました」とする一方で「多くの課題も残っています」と指摘しています。

平井出設子名誉会長（左から2人目）、田村一貴代表世話人（右端）ら「あした葉の会」の皆さん

発足のきっかけ

昭和62年12月に、県独自の家族の会として「オリーブの会」が発足しました。当時の甲府保健所が開催した老人介護教室がきっかけでした。受講者のうちの12人が話し合って、情報交換や広報のための新聞を作ることになり、それなら会を立ち上げようということになったのです。

「オリーブの会」の名称は、旧約聖書「ノアの箱舟」で大洪水の船から放たれたハトが、オリーブの枝をくわえて戻ってきたため、陸地が近いという希望が出てきた話にちなみました。絶望感の中でも希望を持とうという思いが込められています。

その後、当時の8つの保健所単位ごとに「家族の会」ができました。8つの会をまとめる組織として平成6年に「山梨県ぼけ老人を支える会」=現在の「認知症の人と家族の会山梨県支部（あした葉の会）」=を発足し、翌年に全国組織（本部）の支部になりました。

県支部と7つの地域会

現在、山梨県支部（あした葉の会）は、7つの地域会で構成されています。「あした葉」の名称は「夕方摘んでもあすには葉が出る」と言われる植物のアシタバから「あすへの希望を持とう」と名付けました。地域会の名称も「やまびこの会」は今は反応がなくても接しているうちに「やまびこ」のように返ってくるなど、それぞれの思いで命名されています。

会員は合わせて500人超です。男女比は女性が9割近いですが、最近は男性介護者も増えています。会員は親や配偶者の介護者がほとんどですが、介護経験者、また最近は民間の介護施設や県保健福祉事務所、地域包括支援センターなど介護の仕事に関わる人が「家族の気持ちを知りたい」として入会するケースも増えています。

「あんなつらい思いをさせたくない」

県支部は本部の方針を受けて認知症に対する啓発活動などを、地域会は地域の実情に合ったつどいや相談会、研修会などを行っています。

「あした葉劇団」を平成8年に立ち上げて、17年間にわたり寸劇を通じて認知症への理解を訴えてきました。メンバーが高齢化したため、惜しまれながら今年2月の196回目の公演を最後に解散しました。

地域会の会長ら役員は皆、介護経験者です。今と違って相談窓口も世間の理解もない時代に、まさにゼロから苦労した体験を持っています。今はいろんな支援策がありますが、かつては情報もなければサービスもありません。だれに相談していいかもわからないし、人にどのように話していいかわかりません。徘徊するから家に二重、三重の鍵をかけて閉じ込める時代でした。自分で抱えるしかない状況でした。生半可な苦労じゃありません。役員は皆「あんなつらい思いを他の人にさせたくない」との思いから続けています。

あした葉劇団の公演（平成25年9月）

環境は大きく変化

認知症に対する理解はだいぶ進んできました。特に介護保険制度がスタートした平成12年から環境は大きく変わってきました。今は介護の質の問題になってきている感じがあります。行政も熱心になっていて、本人と介護者を救おうと認知症カフェの開設など民間と行政とが協働して取り組んでいます。私たちにも協力を要請されるようになり、会のメンバーが県や市町村認知症対策の委員になっています。

次のステップへ

会員が減少している地域会もあります。かつては、行政に悩みを相談する窓口がありませんでしたが、今は相談窓口があり、介護施設ごとにも家族会ができています。ケアマネジャー(介護支援専門員)も行政の相談員も親身に相談に乗ってくれます。制度の充実によって、会に来て相談することは少なくなりましたが、電話や認知症コールセンターの利用者も増えつつあります。

しかし、各地域においては行政とタイアップを図りながらより良い関係を築くことによって会員増にもつながっています。

会の役割は、当事者の意見を代弁するという役割が大きくなっているのかな、と感じています。会員が行政の委員に選ばれるのも、そうした期待があるからではないでしょうか。認知症への理解も進み、最近はやりつくした感もありましたが、認知症への無理解に驚くこともあります。もう一回ここでがんばって次のステップを模索する必要があると感じています。

認知症への理解を訴える広報活動
(平成25年9月)

認知症の人と家族の会 山梨県支部(あした葉の会)

お問い合わせ先 ☎055-227-6040

オリーブの会(甲府市、甲斐市、中央市、昭和町)　**虹の会**(韮崎市、北杜市)　**やまびこの会**(南アルプス市)
さつきの会(山梨市、笛吹市、甲州市)　**ともしびの会**(市川三郷町、早川町、身延町、南部町、富士川町)
はまなしの会(富士吉田市、道志村、西桂町、忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町)
銀杏の会(都留市、大月市、上野原市、小菅村、丹波山村)

おかえりマークって何?

認知症の人が行方不明になるケースが後を絶たない中、「あした葉の会」が考案して作成した「おかえりマーク」に注目が集まっています。実際にマークによって徘徊していたお年寄りが発見されるケースが相次ぎ、行政も普及に力を入れています。

マークは縦11.5センチ、横8センチの布製。上の布をめくると名前や連絡先を書く欄があります。上着の袖などに安全ピンで留めます。同会は、必要な方にマークをお渡しし、併せてマークを見かけた時の理解と協力をお願いしています。

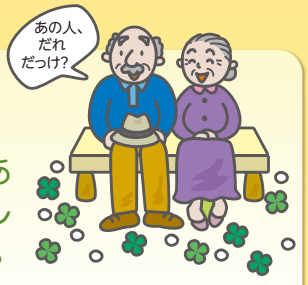
おかえりマークを見かけたら

- ゆったりと話しかけてください
- 水分補給が必要な時もあります
  声かけしながらゆっくりと飲ませてください
- マークの内側の連絡先に電話をお願いします
- 家族や警察官の到着まで
  話し相手をお願いします
- 個人情報の保護を厳守してください

おかえりマークのお問い合わせ先

あした葉の会事務局 ☎055-227-6040

認知症を早期発見しましょう



認知症は、周囲が気づいたときには、症状が進行していることも少なくありません。初期の症状を見逃さないこと、そして、認知症かどうかはっきりしなくても、少し様子が変だと感じたら、早期に診断を受けることが大切です。

■初期の症状と判断のめやす

- 同じ話を無意識に繰り返す
- 知っている人の名前が思い出せない
- ものの置き場所を忘れる
- 今しようとしていたことを忘れる
- 理由もないのに気がふさぐ
- 人と会ったり外出することをおっくうがる、行事に参加したがらない
- 身なりを気にしなくなる
- 調理や車の運転など、日頃出来ていたことができなくなる

■進行すると

- 「いつ(時)・どこ(場所)・だれ(人)」がわからない(見当識が不確かに)

■さらに進行すると

- 足し算・引き算ができない
- 「お金をとられた」などの被害妄想にとらわれる
- すじ道立った考え方ができない
- 徘徊や失禁不潔行動などのいわゆる”問題とされる行動”があらわれる
- 夜間不安(幻覚)

認知症を防ぐために日頃からできること

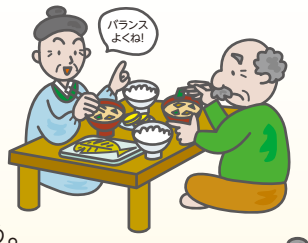
脳の老化のスピードには個人差があります。これは、その人の生活習慣と老化が密接にかかわっているからです。最近の研究では、脳血管性認知症だけでなく、アルツハイマー型認知症の場合も、生活習慣を改善することで発症を遅らせることができるとわかってきました。

■脳を活発に動かしましょう

- 新聞や読書、テレビやラジオなどから、広く情報を得るようにしましょう。
- 日記など文章を書いてみましょう。
- おしゃれに気を使ってみましょう。

■生活習慣を見直しましょう

- 定期健診を受け、血圧やコレステロール値に注意を払い、異常があったら早めに治療しましょう。
- 良質のタンパク質や野菜、豆類、海藻類などを十分にとり、栄養バランスのよい食事を心がけましょう。
- 動物性脂肪や食塩をとりすぎると、高血圧や動脈硬化などの原因になり、脳血管性認知症の引き金になります。



- 禁煙を実行し、お酒の飲みすぎに注意しましょう。
- 適度な運動をしましょう。
- ストレスの解消に努めましょう。
- 生活のリズムを整えましょう。運動不足は脳の大敵です。

■自分の生きがいや楽しみな活動を実践しましょう

- 心から楽しめることを実践しましょう。
- 若い頃、やりたいと思っていてできなかった習い事など、今からでもやってみましょう。
- 人に喜ばれることをしてみましょう。
- 始めるのに遅すぎるということはありません。新たなことにチャレンジしてみましょう。
- 料理なども工夫してつくってみたり、みんなで食べるなど、楽しみの機会を作りましょう。

■外に出て人と会いましょう

- 散歩に出たり、近所の人や友人と会ったりすると、気分がリフレッシュし生活にもはりが生まれます。

山梨県の認知症高齢者を支援するホームページを参考に編集しました。

認知症に関する相談機関のご紹介

1人で悩んでいませんか？

認知症コールセンター

☎055-222-7711（月曜日～金曜日 13:00～17:00）

保健師・看護師や認知症介護の経験者が様々な相談に応じます。
電話相談は顔を合わせることも、名前を知らせる必要もありません。
（相談は無料、秘密は厳守します）

認知症疾患医療センター

認知症について、鑑別診断や行動・心理症状（BPSD）への対応等を行うとともに、患者の病状に応じた医療機関の紹介、専門的な相談対応などを地域包括支援センター等と連携しながら、地域における医療と介護の連携拠点です。

山梨県立北病院 ☎0551-22-1621（韮崎市旭町上条南割3314-13）

日下部記念病院 ☎0553-22-0536（山梨市上神内川1363）

認知症関係の専門外来等

「もの忘れ外来」など、認知症に関する専門外来を行っている医療機関があります。
※「もの忘れ外来」などの一覧は山梨県のホームページ「認知症高齢者を支援するページ」に掲載しています。

その他の相談機関等

山梨県のホームページ「認知症高齢者を支援するページ」では、医療機関の情報をはじめ、認知症に関する様々な情報を掲載しています。
（山梨県のホームページより、検索「認知症」で表示されます）

URL:http://www.pref.yamanashi.jp/fukushi/ninchi/

貸し出し 図書紹介

著　者　本田　美和子
イヴ・ジネスト
ロゼット・マレスコッティ

発行者　株式会社 医学書院
〒113-0033
東京都文京区本郷1-28-23
☎03-3817-5600

ホームページ
http://www.igaku-shoin.co.jp/top.do

『ユマニチュード入門』

ユマニチュード（humanitude）とは、イヴ・ジネストとロゼット・マレスコッティの2人によって作り出された、知覚・感情・言語による包括的コミュニケーションのことです。

このユマニチュード入門では、その人のレベルに合ったケアを行うということや、人間が最期まで人間らしく生きるために必要な援助『見る』『話す』『触れる』『立つ』を、ユマニチュードの4つの柱として、取り組み方と技術を解説しています。

このほかにも介護・看護・福祉についての本（293冊）やビデオ・DVD（195本）を貸し出しております。詳しくは介護実習普及センターにお問い合わせください。《☎055-245-8680》

Goods

福祉用具紹介

あると便利なグッズたち

1 高齢者用電動カート パルパル

価格：138,000円(非課税)

軽量・コンパクトな設計にしたことで、日本の狭い道路（歩道）事情には、非常によくマッチしています。高齢者にとって「操作しやすい」を前提としたシンプルなデザイン。

また、遠くからの視認性を向上させるために、よく目立つように「ワインレッド」色を採用。機能と安全性を最優先したデザインになっています。メーカーの代表者が「高齢者が高齢者の目線」で開発した製品です。

「高齢者が高齢者の目線」で開発した製品です。

CheckPoint

要介護2以上の認定者は、介護保険を利用することで自己負担分として、おおむね月2,000円でのレンタルが可能です。ただ要介護1以下の軽度認定者は、原則介護保険によるレンタルはできないので、自己負担でレンタルするか、購入しなければ利用できません。そこで、業界最安値の価格を実現させ、お求めやすくしました。新しいレンタル・購入方法の提案もしています。要支援等軽度認定者や元気な方が気軽に利用できます。

2 介助者の腰の負担軽減 カチャットチェア90

価格29,800円(税別)

90度ごと4か所で自動的にロックがかかり、止まるので安心して立ち座りが行えます。また、手をかけてもグルッとまわらないので安心です。立ち座りの介助で、椅子を押したり引いたりしなくてすむので、介助者の腰に負担がかかりません。

座る人の体格に合わせて、座面高44㎝と38㎝の2タイプから選ぶことができ、レバーの位置は、組み替えることで左右の入れ替えが可能です。

90°ごとに4カ所で自動ロック。止まるから立ち座りが安心。

CheckPoint

座位姿勢が取れて、立ち座りが（一部介助でも）可能な方に。楽に方向転換ができるので、玄関での靴の脱ぎ履きや足浴用の椅子として、幅広く活用できます。狭い場所での方向転換など、介助者にとっても負担軽減になります。

3 多機能肘付椅子 スマイルチェア2

価格34,800円(税別)

座る人の体格に合わせて、座面の高さ、奥行、肘掛け幅、背もたれの高さが組替え可能な多機能肘付チェア。色のバリエーションは、グリーン・ピンク・ブルー・ベージュの4色。施設などでは、椅子をサイズ別で色分けしてみたらいかがでしょう。その方の座りやすい椅子が一目で見つかります。

また、グリーン・ピンク色は抗菌・防汚・難燃・耐アルコールレーザー張です。体格に合ったサイズで座ることで疲れにくく、小柄な方や上半身を支える力の弱くなった方の体にもフィットし、しっかりサポートします。

座面の角度が「標準」と「前傾」2つのポジションに変えられます。

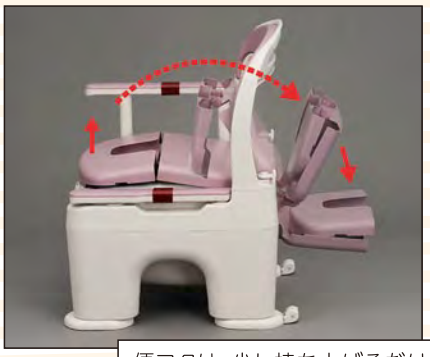
CheckPoint

座面の角度が「標準」と「前傾」の2つのポジションに変えられます。「標準ポジション」は、緩やかに後傾しているため、前へ滑りにくく長時間座っても疲れにくくなっています。「前傾ポジション」はリウマチなどで膝の曲げ伸ばしなどが不自由で、立ち座りに難のある方専用のポジションです。

4 ポータブルトイレ
〈座楽〉ラフィーネ

価格26,000～65,000円(税別)

従来の樹脂製のポータブルトイレでは難しかった、肘掛け部分の可動(移乗性確保)が標準モデルに搭載し、より利用される方の移乗に伴う安全性を高めました。女性に好まれる「ミスティーパープル」「モカブラウン」の2色から選べます。機能性の高い商品を選定すると家具調トイレ等の高価格帯の物しかありませんでしたが、低価格で幅広い選定が可能になりました。



便フタは、少し持ち上げるだけで、あとはバネの力で簡単に開きます。

利用者・介助者の一連の動作に配慮しました。便フタは、少し持ち上げるだけで、あとはバネの力で簡単に開きます。さらに便フタを押し込むと後方介助スペースを用意できます。昇降式ひじ掛けで、便座と同じ高さまで下げられ、立ち上がらずに腰を浮かせるだけで移乗できます。ひじ掛けや便座のタイプも4種類から選ぶことができます。利用される方に合わせて選ぶことができます。

CheckPoint

介護保険の特定福祉用具・特定介護予防福祉用具購入の対象品です。年間10万円を上限として購入費用の9割が支給(還付)されます。ただし、限度額のオーバー分は自己負担になります。

講座のご案内

講座名	内容	定員	開催日	開催時間	開催場所	対象者
認知症地域公開講座	・認知症予防について	100名	11/8(土)	13:30～16:30	南アルプス市【若草生涯学習センター】	南アルプス市在住者
		100名	11/18(火)	13:30～16:30	身延町【身延町総合文化会館】	身延町在住者
		100名	12/6(土)	13:30～16:30	都留市【ぴゅあ富士】	都留市在住者
認知症キャラバン・メイト養成講座(※1)	・認知症サポーター養成講座の運営方法	100名	12/4(木)	9:30～16:50	南アルプス市【桃源文化会館】	中北・峡東・峡南地域に勤務又は在住者(※2)
		100名	12/18(木)	9:30～16:50	都留市【いきいきプラザ都留】	富士・東部地域に勤務又は在住者(※2)
《団体》認知症サポーター養成講座(※3)	・認知症の基礎知識 ・認知症の人への対応の仕方	30名	随　時	2時間	山梨県立介護実習普及センター ※要望があれば、出張します。	団体にて5名以上の申し込みの場合、開催いたします。

◎全ての講座にて、事前に申し込みが必要です。

※1 講座修了者には、「キャラバン・メイト養成研修修了証」をお渡しします。
※2 受講対象者には必要条件がありますので、事前にお問い合わせください。
※3 講座修了者には、「オレンジリング」をお渡しします。

[お問い合わせ・お申し込み先]
介護実習普及センター ☎055-254-8680

いきいき山梨ねんりんピック2014

「元気で楽しい三世代」をテーマに開催

平成26年9月27日（土）、今年で22回目を迎えたこの大会は、「高齢者から子どもまで世代を超えて交流を深めること」を目的に、いきいき山梨ねんりんピック実行委員会（事務局:山梨県社会福祉協議会）の主催で、甲府・小瀬スポーツ公園をメイン会場に開催しました。

①

②

④

③

⑤

世代を超えて交流　競技に大きな歓声

この日は、60歳以上の方が参加できるテニスやグラウンド・ゴルフなどの各種スポーツ交流大会、囲碁や将棋など文化交流大会が行われました。

「いきいき山梨ねんりんピック」を開催しました。

子どもたちも参加できる「三世代交流」をテーマとした催し物では、高齢者の指導により凧づくりや絵手紙、風車づくり、押し花などの体験や昔のあそびを楽しみ、世代を超えて、交流を深めていました。

①選手宣誓と旗手はグラウンド・ゴルフの選手が務めました②秋風の中を精一杯走ります（ジョギング）③狙いを定めて「そーれっ!」（輪投げ））④熱戦が繰り広げられました（テニス）⑤色鮮やかな衣装で登場（フォークダンス）⑥多くの出演者で盛り上がったステージ⑦ソフトバレーボール⑧割りばしで鉄砲づくり⑨僕も挑戦!!（将棋）⑩ラージボール卓球⑪バウンドテニス⑫息の合った演武を披露（太極拳）⑬互いに譲らず…（囲碁）⑭手織りを体験⑮交通安全の呼びかけ（山梨県警察本部）⑯きれいな風車が完成しました

福祉・介護のしごと
シンポジウムを開催します！

福祉・介護の魅力
知ってほしい大切なしごと

労働人口の減少が予想される中、介護分野においては、平成27年度に170万人、平成37年度には250万人の介護職員が必要とされています。

このため山梨県社会福祉協議会では、福祉・介護のしごとの魅力を広く県民に発信する事業として、福祉・介護のしごとシンポジウムを開催します。

介護現場における人材確保

最新のデータによると日本人の平均寿命は男性80.21歳、女性86.61歳で、いずれも過去最高を更新し、男性が初めて80歳を超えたことが厚生労働省の調査で発表されました。国際的な比較では女性は2年連続世界一、男性は前年の5位から4位になりました。

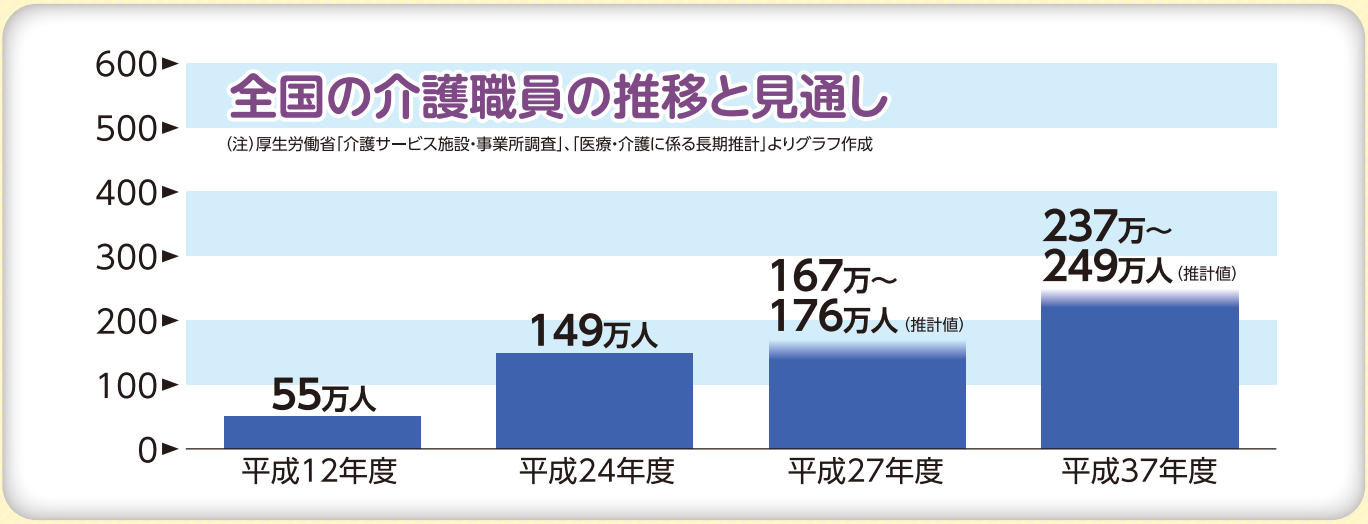
日本の平均寿命が著しく伸びた要因として、医療の進歩、栄養事情の改善、環境衛生の向上などがあげられます。今後、65歳以上の高齢者の割合はさらに増加し、2030年には人口に占める65歳以上の割合が3割強の超高齢化になると予測されています。

長寿社会を喜ぶ一方で課題となるのが、介護を取り巻く課題です。

介護に関する課題の中でも本誌では、介護を担う人材確保についてお知らせします。

介護保険制度がスタートした後、介護職員数は増加し現在3倍近い方々が従事されていますが、介護サービスの質量の向上と相まって、まだまだ人材が不足している状況にあり、介護分野の有効求人倍率は他の職種と比較して群を抜いて高い状況にあります。

さらに、団塊の世代と呼ばれる方々が介護を要するであろうことが予測される、平成37年には、現在の1.5倍以上の従事者が必要と推計されています。



生島ヒロシさん

介護現場における人材確保

福祉・介護のしごとシンポジウムを開催

日時 **11月16日(日)13:00～16:30**

場所 **山日YBSホール** 甲府市北口2-6-10

11月11日(火)は「介護の日」、全国でさまざまなPR活動が行われます。

山梨県社会福祉協議会では、11月16日(日)甲府駅北口の山日YBSホールで、介護のしごとにおける魅力を広く県民に発信するため、「福祉・介護のしごとシンポジウム」を開催します。

当日は、元TBSアナウンサーで、東北福祉大学客員教授であるタレントの生島ヒロシさんをお招きしての講演会や、介護の現場で働く方々から、介護のしごとの魅力について語り合うパネルディスカッション、介助犬のデモンストレーションなどを開催します。

参加費は無料です。事前の申し込みが必要となります。

プログラム

12:30	開場・介護の魅力発信DVD上映
13:00	開会式
13:10	生島ヒロシさん講演会 「これからの介護に備えて」
14:25	パネルディスカッション 「求ム!介護福祉士～ 魅力あふれる介護の世界へ～」
15:30	日本介助犬協会 「介助犬デモンストレーション」
16:30	終了

問い合わせ先 **福祉人材研修課 ☎055-254-8654**

お知らせ

この広報誌の作成費用の一部は赤い羽根共同募金配分金により発行されています。

第62回山梨県社会福祉大会のご案内

山梨県の社会福祉関係者が一堂に会し、今日まで社会福祉の発展に功績のあった個人・団体などに対し、感謝の意を表するための表彰を行います。

また、大会を通してこれからの社会福祉の推進方策を探ります。ぜひご参加ください。

主催 山梨県社会福祉協議会
山梨県共同募金会

日時 平成26年11月25日(火)
午後1時30分～3時30分

場所 コラニー文化ホール(山梨県立県民文化ホール)大ホール
甲府市寿町26-1(電話055-228-9131)

内容 (1)大会式典
(2)記念講演
「だれもが「希望」をもつ山梨に
～希望のつくり方～」
講師:東京大学社会科学研究所 教授
玄田 有史(げんだ ゆうじ)さん

玄田 有史教授

参加費用 無料

問い合わせ 県社協総務企画課 ☎055-254-8610

社会福祉法人の情報公開義務化のお知らせ

平成26年度からすべての社会福祉法人に対し、「経営の透明性」を高めていくため、財務諸表を含む経営情報を電子データ化して、インターネットで公表することが義務化されました。

自法人のホームページで情報公開していない法人は、登録・公開をお願いします。

ホームページを持たない法人は、全国社会福祉法人経営者協議会への加入による情報公開をお奨めします。

すでに経営情報の公開を実施している法人は、各法人の公益性に根ざした取り組みとその発信を行うことを併せてお願いします。

問い合わせ 県社協福祉振興課 施設団体支援室 ☎055-254-8610

生活物資(食料品等)の贈呈

JA共済連山梨(飯窪一浩本部長)様より生活物資(食料品等)を寄贈いただきました。寄贈団体様の趣旨を尊重し有効に活用させていただくこととし、NPO法人フードバンク山梨にすべてを寄託いたしました。ありがとうございました。

(左)JA共済連山梨 鷹野武副本部長
(右)県社協 末木浩一常務理事

問い合わせ 県社協福祉振興課 ☎055-254-8610

「第7回小児福祉機器展in山梨」開催

障害のある子どもたちのための福祉機器展を開催します。車いすや食器、おもちゃ、コミュニケーション機器などを実際に見て試すことができます。

日時 平成26年11月9日(日)
午前10時～午後3時30分

場所 山梨県立あけぼの医療福祉センター
(韮崎市旭町上條南割3251-1)

参加費用 無料。どなたでも大勢のみなさまのご来場をお待ちしております。

問い合わせ 小児福祉機器展in山梨
実行委員会事務局
(県立あけぼの医療福祉センター
療法科内)
☎0551-22-6112
FAX0551-22-6184

広報誌「やまなしの福祉」をパソコンやタブレットで閲覧

広報誌「やまなしの福祉」は、本会ホームページでPDF版の閲覧ができるほか、電子ブックでもご覧になれます。

タブレット・スマートフォンでの電子ブックのご利用の場合は、下記のQRコードでアクセスしてアプリ(ActiBook無料)をダウンロードしてください。指定のID(毎号変更)を入力すると閲覧できます。11月号は以下の通りです。※パスワードは必要ありません

ホームページ
http://www.y-fukushi.or.jp

11月号のID **yfukushi1611**

Android用 **iOS用**

豪雨災害等で被災されたみなさまには心よりお見舞い申しあげます。

発行 社会福祉法人 山梨県社会福祉協議会 〒400-0005 甲府市北新1-2-12 山梨県福祉プラザ TEL055-254-8610 FAX055-254-8614 http://www.y-fukushi.or.jp/